

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第 1 号】

平成 21 年 10 月 28 日、平成 21 年度「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催しました。



① 現地調査について

- ・官と民が連携して地元の子供・住民を巻き込んだ活動が盛んと感じた。
- ・せっかく作った施設を有効に使っていくのは我々、市民サイドの仕事。我々がもう少し知恵を絞りながら有効にしていく必要性を感じた。
- ・親水広場のポプラ並木が凄く綺麗だった。
- ・バス移動中に遠景でとても綺麗で、あまり知っている人がいないのがもったいない。
- ・岩見沢も美しい田園風景が広がっているので写真展などで写真の好きな人たちに写してもらって、先ずは市民の方々に見てもらうことができたら良い。
- ・親水公園等は素直に立派だと思った。
- ・個人的な使用に関しては何らかのルールを設けるべきなのか、広報活動をうまくやっていると難しいと感じる。
- ・カヌースポットは確かに川の遊び場。ただ、岩見沢地区で見ていくと川が遊び場という雰囲気はないので、遊び場としての川の活用を今後できれば良いと思う。
- ・イベントの時はみなさんいらっしゃるけど、そうでない時はどういう利用法があるのかなと考えると、何をするという話ではなくて今で言えば川があって周りに緑があるのでのんびりできる空間、ただそれだけでも良いのかなという感じがする。
- ・水辺の楽校をいかに市民の人に知ってもらおうかという部分の努力を行政としても個人としてもしていかなければいけない。

平成 21 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を、以下のとおり開催しました。

・ 日時:平成 21 年 10 月 28 日(水)

13:00~17:15

場所:岩見沢河川事務所 1F 会議室

当日は委員15名中13名が参加し、バスに乗って幾春別川の親水広場、三笠水辺の楽校及び西桂沢カヌースポットにおいて「川の通信簿調査」を実施しました。その後、岩見沢河川事務所に会場を移して、意見交換を行いました。

意見交換では、現地調査での感想や意見がだされ、幾春別川の水質についても意見がだされました。また、幾春別川でのこれからの取り組みについても委員の方から意見をいただきました。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員

氏 名	所 属
石黒 武美	NPO 山のない北村の輝き 理事長
伊東 良幸	岩見沢市教育委員会 教育部長
管野 二郎	札幌土木現業所 岩見沢出張所長
榊原 郁子	北海道教育大学岩見沢校 名誉教授
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
高篠 和憲	NPO 三笠森林遊学舎 理事長
田中 裕晃	岩見沢市 健康福祉部 環境対策課長
奈良 健二	岩見沢市観光協会 会長
平野 義文	(社)岩見沢青年会議所 理事長
宝沢 康晴	FM はまなす JAPAN 放送局 部長
松浦 基晴	三笠市 経済建設部 建設管理課長
眞野 弘	北海土地改良区 理事長
石神 孝之	幾春別川ダム建設事業所長
伊藤 禎朗	岩見沢河川事務所長
山谷 政彦	桂沢ダム管理所長

- ・地元の人は目立たない所で利用しているのではないかという気がしている。お金をかけられないということで、民間ノウハウを利用して何らかの形で効果を上げていくというのはこれからの国の行政改革の一つだと思う。
- ・堤防の上から川を見ながら散歩できる場所はなかなか少ない。これは案外癒しになると思う。

水質について

- ・三笠を見たのは初めてで、上流に行けば行くほど水が綺麗になっている。裏返すと下流側のどこで何が水を汚している原因なのかということ。
- ・上流のカヌースポットの所に行けば泳ぎたいし、もしかしたら飲めるかもしれないという気持ちになるが、岩見沢地区であれば川に入るのもどうかという感じがした。
- ・街場であれば処理されているから良いけど、農村部に行くといまだに生活排水を川に流している場所もある。
- ・旧美唄川であれば泥炭水やら暗渠水やらで凄く汚い状況で見た目は汚いけど魚が生息するには決して悪い状態ではない。
- ・昔、川と言うと清流をイメージしていて、「それと比べると」というふうに思っていたけど、幾春別川は農業用水としての利用をされていて、周りの田畑を潤してそれからの水が入ってきているわけで、そういうことが分かってくると、ああいう状態がごく自然で清流を望むというのはむしろ違うんじゃないかなという感じが最近沸いてきて、自分も変わったなと今話を聞きながら思っていた。



現地調査状況

これからの取り組みについて

- ・この懇談会に来る前に JR のパンフレットを見た時に、JR の運賃とウォーキングがセットになり、美唄で河川敷地を周って温泉に行くパックがあって、300人の募集であり、広域的な視点に立ってみようと考えた時に、これだけ景観の良い所であれば JR との連携などでも十分通用すると感じた。
- ・今回は三笠市地域子供連絡協議会で人を集めて、桂沢ダムでやっている悠々桂沢倶楽部とタイアップして行っているけど、それを三笠だけではなくて下流も一緒になってできるように仕向けてあげなければいけないと思っている。
- ・川に行ってみるということがあるけど凄く綺麗なポイントもあり、そこに看板を設置して見て下さいと言うのではなく、ビューポイントが知られて春であれば桜の木があってそれが見事で遠くから見て行ってみたいなという情報発信が必要である。
- ・三笠では親水公園の近くに小学校があるので子供たちが帰りにどうしてもあそこに行きたいという、親水公園は子供たちに水で遊びなさいというのではなくて、何か一つ遊具があると子供たちが帰りに行かざるを得ないということになると思う。
- ・川は入ったらいけない場所ではなく十分に注意しながら十分に楽しめる場所であり、我々の空間だと思う。それを市民の我々が色々な人たちに声をかけながら水に触れるような運動を展開していきたい。そのためには我々もやるけど行政からも色々なノウハウをいただきながら計画してやっていきたい。

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
 札幌開発建設部 岩見沢河川事務所
 〒068-0007 岩見沢市7条9丁目
 TEL 0126 (23) 9555
 FAX 0126 (25) 1697
 まで、お気軽にお寄せください。